

宮崎



児嶋理事長

「静養館」がいわゆる「静養館」が行われたかもしない。十次は昔の前ではなく、子どもと人さりの空間で生きていくべき、指導する手法をとったことではある。現在、そのカウンスラーも通じている。

「静養館」がいわゆる「静養館」が行われたかもしない。十次は昔の前ではなく、子どもと人さりの空間で生きていくべき、指導する手法をとったことではある。現在、そのカウンスラーも通じている。



岡山孤児院は入所制限をしなかったため、最大で1200人にも上った（右上の円内は十次）



後援会事務所になっている方角館

十次が晩年を迎えた静養館

子の個性に目を向けて

「天は父なり、人は同胞なり。互いに相親すべし」と。十次が定めた、今も友愛社に引き継がれている法人理念だ。自然を畏れ敬う、そして、人は皆姉妹と信じ、しつかり助け合っていくという意味がある。児嶋理事長は言う。

「運営方針は変わって、十次が描いた理念は今も生き続けているんです。これらも子どもたちの主体性を後押しして、行動力をつけてもらおうと、時代を生かす力をつけてもらいたいと思っています」。

教育

高崎県のJTB高崎駅が15分で20分。緑あふれる茶臼原という地域に児童養護施設などを運営する友愛社がある。35年に及ぶこの場所は十次が晩年、岡山孤児院の分院「茶臼原孤児院」を開設し、移り住んだ場所だ。

精神

静養館の脇の道を歩み、友愛館一に向かう。1955年にできたこの建物はかつて園舎だったが、今は法人本部や理事長室となっている。

【石井十次と石井記念友愛社のあゆみ】

Timeline table showing the history of the organization from 1935 to 1991, including the founding of the orphanage and the establishment of the foundation.

【石井十次を読み解くキーワード】

密室教育 子どもと2人きりの空間で、話を聞いたり、考えを伝えたりする手法。昔の前ではなく、1対1の空間で向き合うことで、子どもが素直になれるという。現在のカウンセリングに通じる部分もある。



家族制度 1人の職員が約10人の子どもを家族のように世話する取り組み。イギリスのバーナードホームにならった。岡山孤児院内には50棟ほどの小さな家を建て、個性ある生活ができるようにした。

委託制度 養育の難しい年少児などを里子として出す取り組み。委託の条件として①人情純粋②正直で親切③幼児児女がない――などを挙げた。毎月、養育料を払う時に体重を計って、子どもの健康状態をチェックしたという。

資金集め 子どもたちの情操教育もかねて音楽隊を設立。全国各地のほか、韓国、中国、台湾などを回り、大変な歓迎を受けたという。活動写真で院内の様子を伝えるなどの啓蒙活動も行い、賛助会員を増やした。



賛助会員は海外にもいた 全国の駅などに置かれた「慈善箱」

時代を生き抜く力、今も

「静養館」がいわゆる「静養館」が行われたかもしない。十次は昔の前ではなく、子どもと人さりの空間で生きていくべき、指導する手法をとったことではある。現在、そのカウンスラーも通じている。

理念

友愛社は現在、高崎県内に児童養護施設3カ所のほか、保育園10カ所、高齢者サービスセンター、障害者通所施設1カ所を運営。また法人本部の敷地内には、十次まつりという資料館もある。十次「僕、いったんは閉鎖された茶臼原孤児院だったが、児嶋理事長の父にあたる児嶋誠一郎氏が1945年に復活させた」。

資金 十次が生まれたのは福祉という言葉すらない時代。地盤も吉、戦争と十次は、職員が七十もいたさまままな原因もあり、岡山孤児院には最大1200人の孤児がいて、小規模の家を50棟ほど建設。家計的な雰囲気でも、十次は、職員が七十も

今の小舎制に似ている。一室を10人ほどに分けて面倒をみる『寮制度』を取り入れた。小規模の家を50棟ほど建設。家計的な雰囲気でも、十次は、職員が七十も

件も定め、養育料も毎月払った。一方、運営には莫大な費用がかかる。十次は音楽隊を結成、日本中

や、韓国、中国などを派旅行し回っている。先行先で、活動写真を用いて施設の様子を伝える。その結果、活動に賛同する会員は1万人以上に上っている。また孤児院は将来社会で自立できるように、大工や散髪、裁縫など実践的な教育を行っており、これで得た収入もあったという。そして、十次は、職員が七十も

「天は父なり、人は同胞なり。互いに相親すべし」と。十次が定めた、今も友愛社に引き継がれている法人理念だ。自然を畏れ敬う、そして、人は皆姉妹と信じ、しつかり助け合っていくという意味がある。児嶋理事長は言う。